

ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況 (2007年5月~6月)

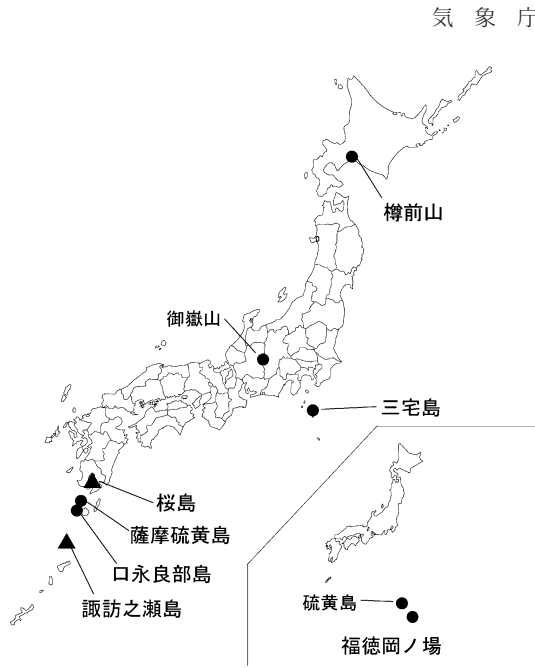


図 1. 2007年5月~6月に目立った活動があった火山  
▲: 噴火した火山  
●: 活動が活発もしくはやや活発な状況であった火山

●樽前山 (42°41'26"N, 141°22'36"E)

5月22日に行った上空からの観測(北海道開発局の協力による), 5月29日に行った現地調査および6月28日に北海道立地質研究所が行った現地調査では, 山頂溶岩ドーム及びその周辺の火口や地熱域の状況に変化はなく, A火口やB噴気孔群では高温の状態が続いていた. 地震活動は低調な状態で, 地殻変動に特段の変化はなかった.

●御嶽山 (35°53'34"N, 137°28'49"E)

2006年12月以降, 火山性地震は消長を繰り返しながらやや多い状態が続く, 火山性微動も時々観測された. また, GPSによる地殻変動観測では御嶽山の地下の膨張を示すわずかな伸びの変化も見られるなど, 火山活動はやや活発な状態が続いていた. しかし, 4月以降は火山性地震の回数が少なくなり, 御嶽山の膨張を示す伸びの変化もほぼ停止した状態で経過し, 火山活動は静穏な状

気象庁

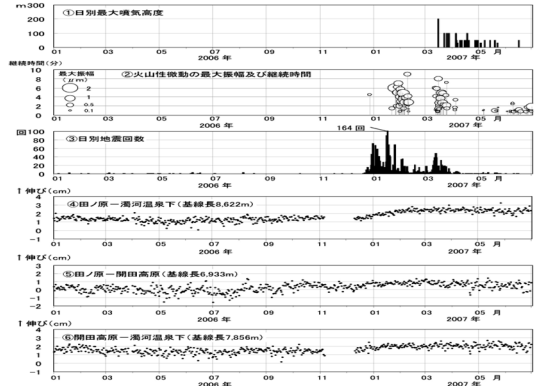


図 2. 御嶽山 火山活動の推移 (2006年1月~2007年6月)

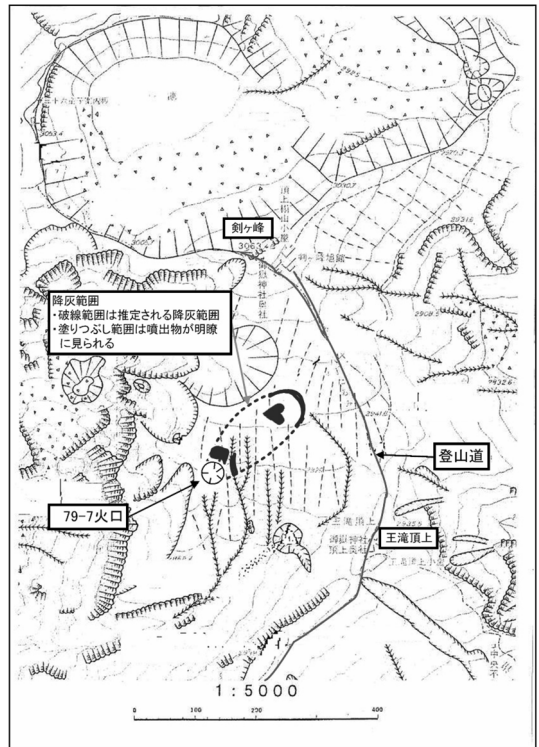


図 3. 御嶽山 5月29日に確認された降灰分布

態となった.

5月29日に行った現地調査で, 79-7火口から北東側約200mの範囲に火山灰が確認されたことから, 2007年3月後半にごく小規模な噴火があったと推定される. 御

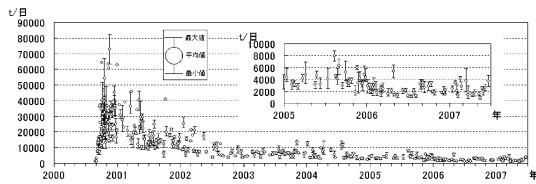


図 4. 三宅島 火山ガス（二酸化硫黄）放出量の変化（2000年1月～2007年6月）

嶽山は、1991年5月にも同程度のごく小規模な噴火をしている。

6月7日に行った上空からの観測（長野県の協力による）では、山頂部の噴気の状態に特段の変化はなく、噴気活動は低調な状態であった。

#### ●三宅島（34°05′37″N, 139°31′34″E）

多量の火山ガス（二酸化硫黄）の放出が続いている。

5月10日、15日、23日、28日、6月6日及び19日に実施した観測では、二酸化硫黄放出量は一日あたり700～4,700tで、依然として多量の火山ガスの放出が続いている。なお、三宅島の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震はやや多い状態が続いている。5月27日02時40分及び03時49分には空振を伴う低周波地震が発生したが、地震発生時の噴煙状況に特段の変化は認められず、また27日に行った現地調査では降灰は確認されなかった。5月18日12時59分および6月19日12時06分に、三宅島で震度1を観測する地震が発生した。火山性微動は観測されなかった。

噴煙高度は火口縁上100～200mで推移した。

5月20日に行った上空からの観測（航空自衛隊の協力による）では、火口内の地形等に大きな変化はなかった。また、山頂火口南側内壁に位置する主火口及びその周辺には引き続き高温部分が認められたが、その地表面温度分布に特段の変化はみられなかった。

地磁気全磁力観測では山体内部の熱の状態に特に大きな変化はなかった。

GPSによる地殻変動観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながらも継続している。

#### ●硫黄島（24°45′03″N, 141°17′20″E）

国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、2006年8月頃始まった島北部を中心として島全体が大きく隆起している地殻変動は鈍化しながらも継続しており、島内の地震活動は回数がやや多いものの落ち着いた状態で推移している。

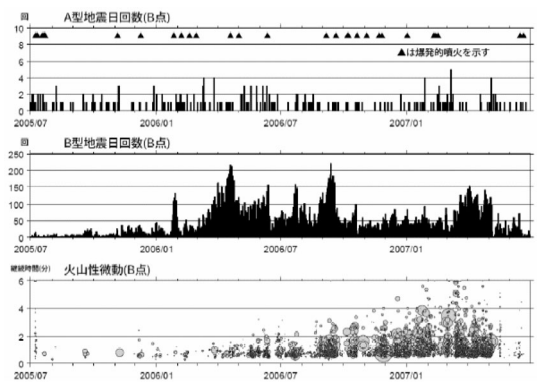


図 5. 桜島 最近の火山活動の推移（2005年7月～2007年6月）

#### ●福徳岡ノ場（24°17.1′N, 141°28.9′E）

5月16日、6月27日に第三管区海上保安本部が、6月25日に海上自衛隊が行った上空からの観測で、火山活動によるとみられる変色水が確認された。

#### ▲桜島（31°34′38″N, 130°39′32″E（南岳））

5月16日06時13分に昭和火口のごく小規模な噴火を観測した。昭和火口の噴火を観測したのは、2006年6月20日以来である。桜島東部の黒神地区の住民によると、15日夜と16日朝に鳴動があり、また16日05時頃には火山灰が積もっていたとの情報もあることから、噴火は15日夜に始まった可能性もある。

その後、昭和火口では噴煙高度が火口上500m程度のごく小規模な噴火が断続的に発生していたが、5月20日以降は、噴煙高度が火口上1,000mを超える噴火も時々発生するようになり、6月5日には噴煙を火口上2,400mまで上げる噴火が発生した。

17日に行った上空からの観測（国土交通省九州地方整備局及び大隅河川国道事務所の協力による）では、今回の噴火が、昭和火口が南側に拡大してできた新たな噴出口で発生したことを確認した。

6月3～7日と6月13～15日には、東よりの風の影響により鹿児島地方気象台（南岳山頂から西南西に約11km）でごく少量の降灰が観測された。

5月19日以降、昭和火口で高感度カメラで捉えられる程度の微弱な火映が観測されている。5月24日に行った上空からの観測（鹿児島県の協力による）では、昭和火口内に溶岩は認められなかった。

5月16日、17日、22日、24日及び6月5日に行った赤外熱映像装置による観測では、以前から昭和火口周辺でみられていた高温域の広がりについて特段の変化はなく、ま

た新たな高温域も認められなかった。

南岳山頂火口では、5月21日、6月16日及び21日に小規模な噴火を観測したが、爆発的噴火はなかった。

火山性地震や火山性微動は、5月7日以降は少ない状態で経過していたが、6月7日と6月14～15日に一時的にやや増加した。

国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入による膨張が引き続き観測されている。

●薩摩硫黄島 (30°47'35"N, 130°18'19"E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は依然としてやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上200～300mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。振幅の小さく継続時間の短い火山性微動が時々観測された。

●口永良部島 (30°26'36"N, 130°13'02"E (古岳))

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

5月21日に行った現地調査では、新岳火口内及びその周辺で引き続き熱活動の高まりが認められた。

GPS連続観測、GPS繰り返し観測および光波距離計の繰り返し観測では新岳の膨張を示す傾向は、昨年12月以降鈍化しつつも継続している。

遠望カメラ(新岳火口の北西約3kmに設置)による観測では新岳火口周辺の噴気等は観測されなかった。

▲諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

5月8日に御岳火口で爆発的噴火が3回あったほか、十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、小規模な噴火が時々発生した。6月12日には、噴火活動に伴う火山性連続微動が観測されたほか、火山性地震や火山性微動が一時的にやや多くなった。その他の日は、火山性地震および火山性微動ともに少ない状態で経過した。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL [http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.htm](http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm)  
(文責: 気象庁地震火山部火山課 加藤幸司)

○東京大学テニユアトラック教員公募について

1. 公募人員: 東京大学若手研究者自立促進プログラムによる、フロンティア研究チームリーダーもしくはフロンティア研究員 2名

2. 研究分野: 地震・火山に関係する固体地球科学分野
3. 研究環境: 研究費は初年度に約1000万円, 2年度から300～700万円程度を支給。研究費でポストク等を雇用することも可。スペースは50平米程度を提供。
4. 応募資格: 博士の学位を有する者(外国での同等の学位を含む)。
5. 雇用条件: フロンティア研究チームリーダーは特任准教授もしくは特任講師として、またフロンティア研究員は特任助教として、2012年3月31日までの任期付き雇用。ただし、任期終了時に研究業績を審査のうえ、地震研究所専任教員として採用される可能性あり。
6. 提出書類:
  - (1) 履歴書(市販用紙可)(外部資金獲得状況, 受賞, 招待講演も記載)
  - (2) 業績リスト(査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。)
  - (3) 主要論文の別刷り3編(コピー可)
  - (4) 研究業績の概要(2～4ページ程度)
  - (5) 今後の研究計画(2～4ページ程度)(応募する職種を明記のこと)
  - (6) 応募者について参考意見をうかがえる方(2名)の書面による所見。氏名, 連絡先とe-mailアドレスを記載のこと
7. 公募締切: 2007年9月10日(月) 必着
8. 採用予定時期: 2008年1月
9. 問い合わせ先: 東京大学地震研究所火山噴火予知研究センター 武尾 実  
TEL: (03) 5841-5707  
E-mail: takeo@eri.u-tokyo.ac.jp
10. 応募書類提出先:  
〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1  
東京大学地震研究所 人事係 宛  
封書を用い、表に「テニユア・トラック教員応募書類在中」と朱書きし、書留郵便で送付のこと。  
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月2日送信しました)

○教員の公募について

【京都大学防災研究所】

1. 公募人員: 准教授 1名
2. 所属: 総合防災研究グループ社会防災研究部門都市防災計画研究分野
3. 研究内容: 都市域大災害発生時のハザード評価などをはじめとし、都市域に潜在する種々の災害に対する危険診断, 危険度評価, 住民や財産の保護のた